

Oracle® Virtual Desktop Infrastructure
Oracle Virtual Desktop Infrastructure の更新

April 2011

ORACLE®

Copyright © 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this software or related documentation is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

This software is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications which may create a risk of personal injury. If you use this software in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure the safe use of this software. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software in dangerous applications.

Oracle and Java are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners. Intel and Intel Xeon are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Opteron, the AMD logo, and the AMD Opteron logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark licensed through X/Open Company, Ltd.

This software and documentation may provide access to or information on content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services.

VDI 3.2 更新のインストール (すべてのトピック)

English

目次

- Oracle Virtual Desktop Infrastructure 3.2 への更新について
- リリース 3.2 への更新方法 (単一 Oracle VDI コアホスト)
- リリース 3.2 への更新方法 (MySQL Cluster を使用した高可用性構成)
- リリース 3.2 への更新方法 (リモート MySQL を使用した高可用性構成)
- リリース 3.2 への更新方法 (仮想化プラットフォーム)
- Sun Storage 7000 2010.Q1 への更新方法
- VDI コアデータベースのバックアップ方法と復元方法

VDI 3.2 更新のインストール (すべてのトピック)

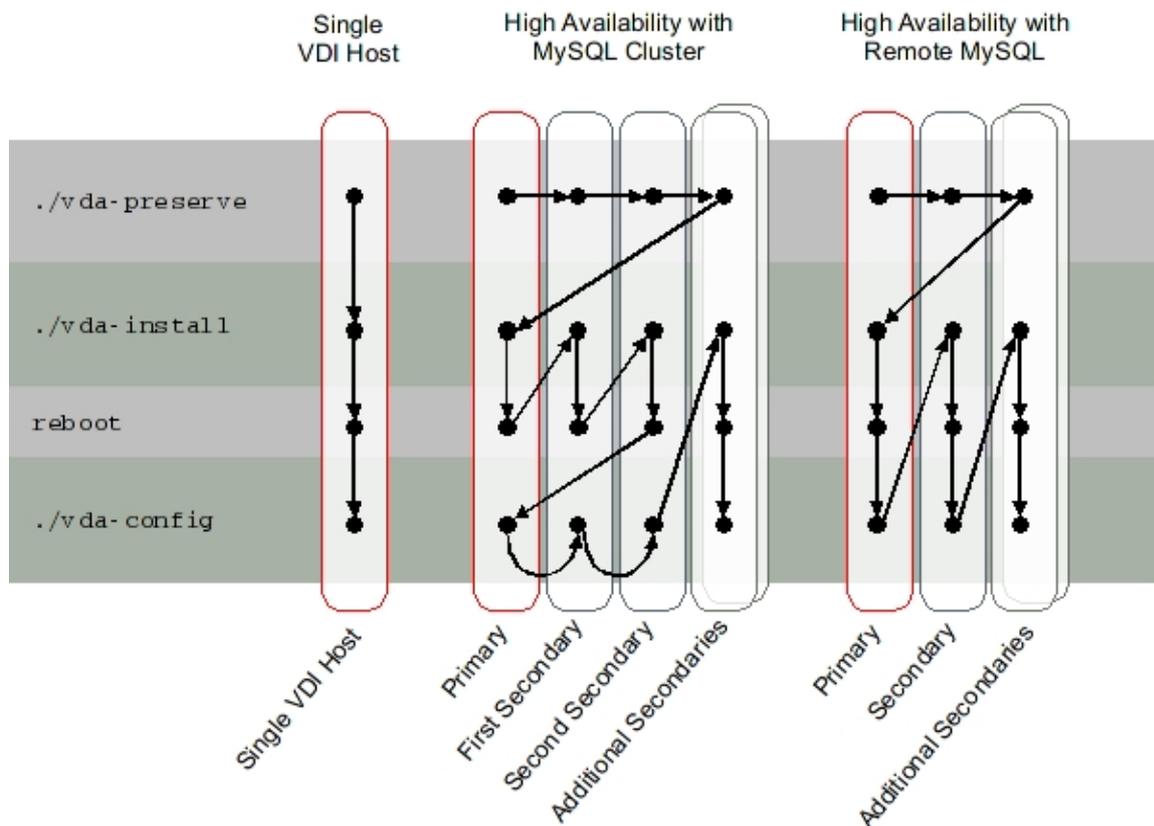
Oracle Virtual Desktop Infrastructure 3.2 への更新について

Oracle Virtual Desktop Infrastructure 3.2 ソフトウェアへの更新には、リリース 3.1 から 3.2 への更新と、リリース 3.1.1 から 3.2 への更新の 2 種類があります。どちらの更新の場合も同じ手順に従います。

Oracle Virtual Desktop Infrastructure

はさまざまなデータベースおよび仮想化プラットフォームをサポートしているため、リリース 3.2 に更新するときは個別の手順に従う必要があります。現在サポートされている更新パスは次のとおりです。

- リリース 3.2 への更新方法 (MySQL Cluster を使用した高可用性構成)
- リリース 3.2 への更新方法 (リモート MySQL を使用した高可用性構成)
- リリース 3.2 への更新方法 (単一 Oracle VDI コアホスト)



Oracle VDI コアの設定を更新するだけでなく、仮想化プラットフォームも更新する必要があります。

既存の Oracle Virtual Desktop Infrastructure インストール環境で Oracle VM VirtualBox 仮想化プラットフォームを使用している場合は、Oracle Virtual Desktop Infrastructure 3.2 でサポートされているバージョンに更新する必要があります。Oracle VDI コアとの通信に関する問題が発生しないようにするため、Oracle VM VirtualBox サーバーの更新は、Oracle VDI コアホストを更新したあとで行うようにしてください。Oracle VM VirtualBox サーバーの更新だけでなく、すべてのデスクトップで、Oracle VM VirtualBox ホスト上のリリースに対応するように Oracle VM VirtualBox Guest Additions を更新する必要があります。詳細については、「[リリース 3.2 への更新方法 \(仮想化プラットフォーム\)](#)」を参照してください。

既存の Oracle Virtual Desktop Infrastructure インストール環境で VMware vCenter 仮想化プラットフォームを使用している場合は、それぞれのデスクトップで VDI Tools を更新する必要があります。詳細については、「[リリース 3.2 への更新方法 \(仮想化プラットフォーム\)](#)」を参照してください。

Sun Storage 7000 2010.Q1 ファームウェアにアップグレードする場合も、Oracle VDI コアを更新したあとでアップグレードを行うようにしてください。詳細については、「[Sun Storage 7000 2010.Q1 への更新方法](#)」を参照してください。

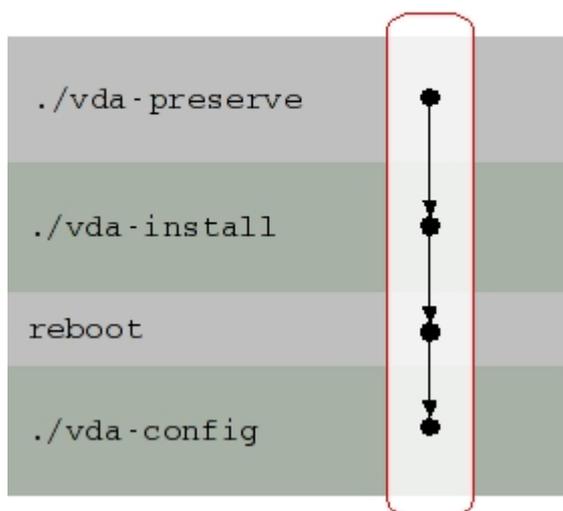
リリース 3.2 への更新方法 (単一 Oracle VDI コアホスト)



機能停止時の影響

単一 Oracle VDI コアホストを更新すると、Oracle VDI コアの機能が完全に停止します。

Single VDI Host



始める前に



バックアップ

以下のチェックリストを使用して、重要なデータがすべて適切にバックアップされたかを確認してください。



データベース -

更新プロセスを開始する前にデータベースをバックアップすることを強くお勧めします。これによって、あと VDI 3.1 ドキュメントの「How to Back Up and Restore Data (Remote MySQL Database)」を参照してください。



カスタマイズ済み `pam.conf` ファイル - 更新プロセスにより、ファイル `/etc/pam.conf` (SRSS アクセス権の内容が再生成されます。ファイルをカスタマイズ済みの場合、更新の前にバックアップを行い、新しく生成



Oracle VDI Manager と CLI を使用した変更

リリース 3.2 への更新中に、Oracle VDI Manager または CLI で Oracle VDI コアに変更を行うことは禁止されています。

手順

1. 単一 Oracle VDI コアホスト上で更新のインストールと構成を実行します。

a. ルートユーザーとして、Oracle VDI コアのアーカイブを解凍し、対応するディレクトリに移動します。

```
# unzip vda_3.2_amd64.zip
# cd vda_3.2_amd64
```

b. `vda-preserve` スクリプトを実行します。

```
# ./vda-preserve
```

c. インストールを実行します。

```
# ./vda-install
```

vda-install

スクリプトは、以前のリリースがインストールされているかどうかを認識し、ユーザーに更新するかどうかを Oracle Virtual Desktop Infrastructure 3.2 のパッケージに置き換えられます。

- d. vda-install スクリプトが完了したら、単一 Oracle VDI コアホストを再起動して、ふたたび稼動するようになるまで待ちます。

```
# reboot
```

- e. 構成を実行します。

```
/opt/SUNWvda/sbin/vda-config
```

vda-config スクリプトは、単一 Oracle VDI

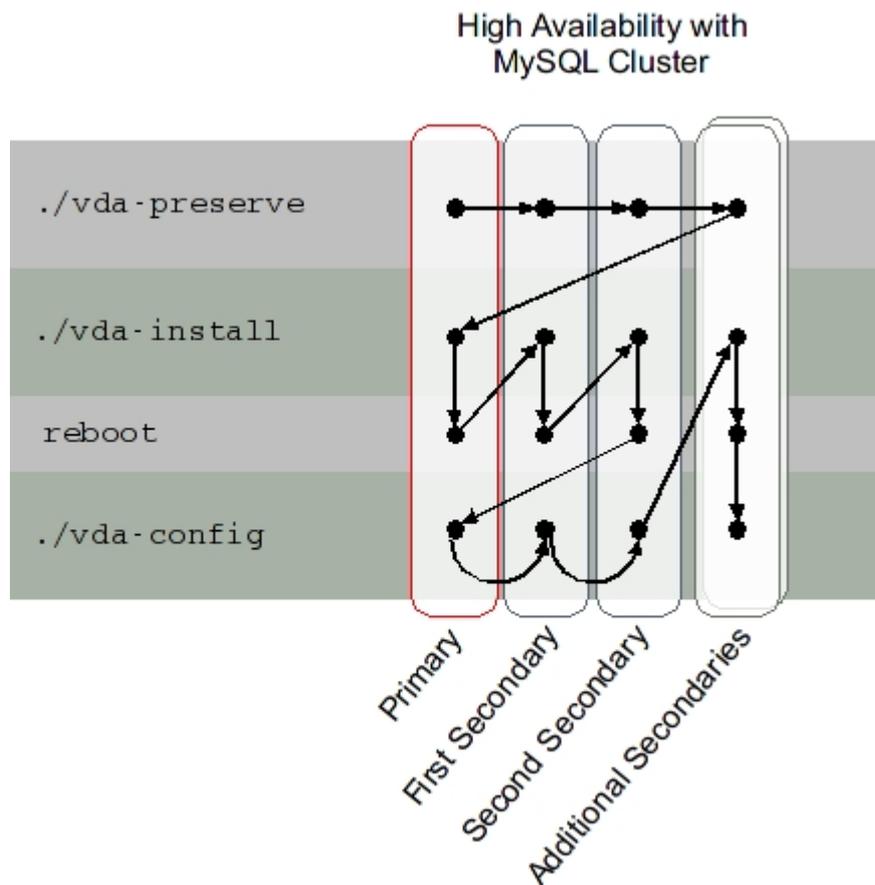
コアホストが更新プロセスの途中であるかどうかを認識し、更新の構成を実行して更新プロセスを完了します。Oracle VDI コア関連のサービスがふたたび有効になります。

リリース 3.2 への更新方法 (MySQL Cluster を使用した高可用性構成)



機能停止時の影響

Oracle VDI コア一次ホストおよび最初の 2 台の Oracle VDI コア二次ホストを更新すると、これらのホスト上でコアの機能が停止します。これ以降の二次 Oracle VDI コアホストは、更新プロセス中も機能します。マイグレーションの最初のフェーズが開始されたあとは、ホスト SQL ノードも再起動してはいけません。



始める前に

- ⊖ **バックアップ**
 次のチェックリストを使用して、重要なデータがすべて適切にバックアップされたかを確認してください。
 - ✔ **データベース -**
 更新プロセスを開始する前にデータベースをバックアップすることを強くお勧めします。これによって、あと VDI 3.1 ドキュメントの「[How to Back Up and Restore Data \(Bundled MySQL Database\)](#)」を参照してください。
 - ✔ **カスタマイズ済み `my.conf` ファイル - MySQL (埋め込み)** クラスタ設定内のホストに対する更新プロセスでの内容が再生成されます。ファイルをカスタマイズ済みの場合、更新の前にバックアップを行い、新しく生成
 - ✔ **カスタマイズ済み `pam.conf` ファイル -** 更新プロセスにより、ファイル `/etc/pam.conf` (SRSS アクセス権) の内容が再生成されます。ファイルをカスタマイズ済みの場合、更新の前にバックアップを行い、新しく生成
- ⊖ **Oracle VDI Manager と CLI を使用した変更**
 リリース 3.2 への更新中に、Oracle VDI Manager または CLI で Oracle VDI コアに変更を行うことは禁止されています。

手順

1. すべての Oracle VDI コアホスト上のデータを保存します。
 - a. ルートユーザーとして、Oracle VDI コアのアーカイブを解凍し、イメージディレクトリに移動します。

```
# unzip vda_3.2_amd64.zip
# cd vda_3.2_amd64
```

- b. vda-preserve スクリプトを実行します。

```
# ./vda-preserve
```

- c. すべての Oracle VDI コア一次および二次ホスト上で、直前の下位手順を実行します。

2. 一次 Oracle VDI コアホスト上で、イメージディレクトリから更新のインストールを実行します。

- a. イメージディレクトリに移動します。

```
# cd vda_3.2_amd64
```

- b. インストールを実行します。

```
# ./vda-install
```

vda-install スクリプトは、以前のリリースの Oracle VDI コアがインストールされているかどうかを認識し、ユーザーに更新するかどうかを確認します。「y (はい)」を選択すると、更新プロセスの最初のフェーズが開始されます。更新プロセスのインストール部分で VDI コア一次ホスト上の設定がバックアップされ、リリース 3.2 の新機能をサポートできるようにデータベースが準備されます。更新の最初のフェーズでは、MySQL Cluster の管理ノードも停止し、また Oracle VDI コア一次ホストがセッションをホストするように構成されているため、Oracle VDI コア関連のすべてのサービスが無効になります。次に、以前のリリースのパッケージがアンインストールされ Oracle Virtual Desktop Infrastructure 3.2 のパッケージに置き換えられます。

- c. vda-install スクリプトが終了したら、Oracle VDI コア一次ホストを再起動し、ホストが立ち上がるまで待機します。

```
# reboot
```

3. 最初の Oracle VDI コア二次ホスト上で更新のインストールを実行します。

2 台の Oracle VDI コア二次ホストを安全に更新するには、最初の二次ホストに Oracle VDI コアを完全にインストールしてから、2 台目の二次ホストに Oracle VDI コアを完全にインストールします。Oracle VDI コアを 2 台の二次ホストに同時にインストールする方法はサポートされていません。

- a. イメージディレクトリに移動します。

```
# cd vda_3.2_amd64
```

- b. インストールを実行します。

```
# ./vda-install
```

vda-install スクリプトは、以前のリリースがインストールされているかどうかを認識し、ユーザーに更新するかどうかを「(はい)」を選択すると、インストールが開始され、Oracle VDI

コア二次ホスト上の設定がバックアップされます。二次ホスト上の設定のバックアップに加えて、インストー MySQL Cluster のデータノードを停止し、ホスト上のすべての Oracle VDI コア関連のサービスを無効にします。次に、以前のリリースのパッケージがアンインストールされ、新しい Oracle Virtual Desktop Infrastructure 3.2 のパッケージに置き換えられます。

c. vda-install

スクリプトが終了したら、最初の二次ホストを再起動し、ホストが立ち上がるまで待機します。

```
# reboot
```

d. 次のコマンドを実行して、MySQL のデータベースが再度完全に起動したことを確認します。

```
/opt/SUNWvda/sbin/vda-db-status
```

すべてのノードが「起動 (up)」状態である必要があります。

4. 上記手順 2 に従って、2 台目の Oracle VDI コア二次ホスト上で更新のインストールを実行します。

5. Oracle VDI コア一次ホスト上で更新の構成を実行します。

Oracle VDI コア一次ホストおよび最初の 2

台の二次ホスト上で更新プロセスのインストール部分が完了すると、更新プロセスの構成部分を開始できる状態になり

- ルートユーザーとして、次のコマンドを実行します。

```
# /opt/SUNWvda/sbin/vda-config
```

vda-config スクリプトは、Oracle VDI

コア一次ホストが更新プロセスの途中であるかどうかを認識し、更新の構成を実行して更新プロセスを完了し Oracle VDI コアホストとして動作するように構成されていた場合は、この構成によってすべての Oracle VDI コア関連のサービスがふたたび有効になります。

6. 最初の Oracle VDI コア二次ホスト上で更新の構成を実行します。

Oracle VDI コア一次ホスト上で更新の構成が完了したら、最初の 2

台の二次ホスト上で更新の構成を開始できます。更新のインストールと同様に、最初の二次ホストを完全に構成して 2 台目の二次ホストを完全に構成する必要があります。2 台の二次ホスト上で Oracle VDI コアを同時に構成する方法はサポートされていません。

- ルートユーザーとして、次のコマンドを実行します。

```
# /opt/SUNWvda/sbin/vda-config
```

vda-config

スクリプトは、二次ホストが更新プロセスの途中であるかどうかを認識し、更新の構成を実行して更新プロセス Oracle VDI コア関連のサービスがふたたび有効になります。

7. 上記手順 5 に従って、2 台目の VDI 二次ホスト上で更新の構成を実行します。

8. 以降の (省略可能な) 二次ホスト上で更新のインストールと構成を実行します。

一次ホストおよび最初の 2

台の二次ホストに対する更新が完了したら、以降の二次ホストを順不同で更新できます。更新プロセスを開始するには:

a. イメージディレクトリに移動します。

```
# cd vda_3.2_amd64
```

- b. インストールを実行します。

```
# ./vda-install
```

vda-install

スクリプトは、以前のリリースがインストールされているかどうかを認識し、ユーザーに更新するかどうかを(はい)を選択すると、マイグレーションプロセスが開始されます。以前のリリースのパッケージがアンインストールされ、Oracle Virtual Desktop Infrastructure 3.2 のパッケージに置き換えられます。

- c. vda-install スクリプトが終了したら、Oracle VDI コア一次ホストを再起動し、ホストが立ち上がるまで待機します。

- d. 構成を実行します。

```
# /opt/SUNWvda/sbin/vda-config
```

vda-config

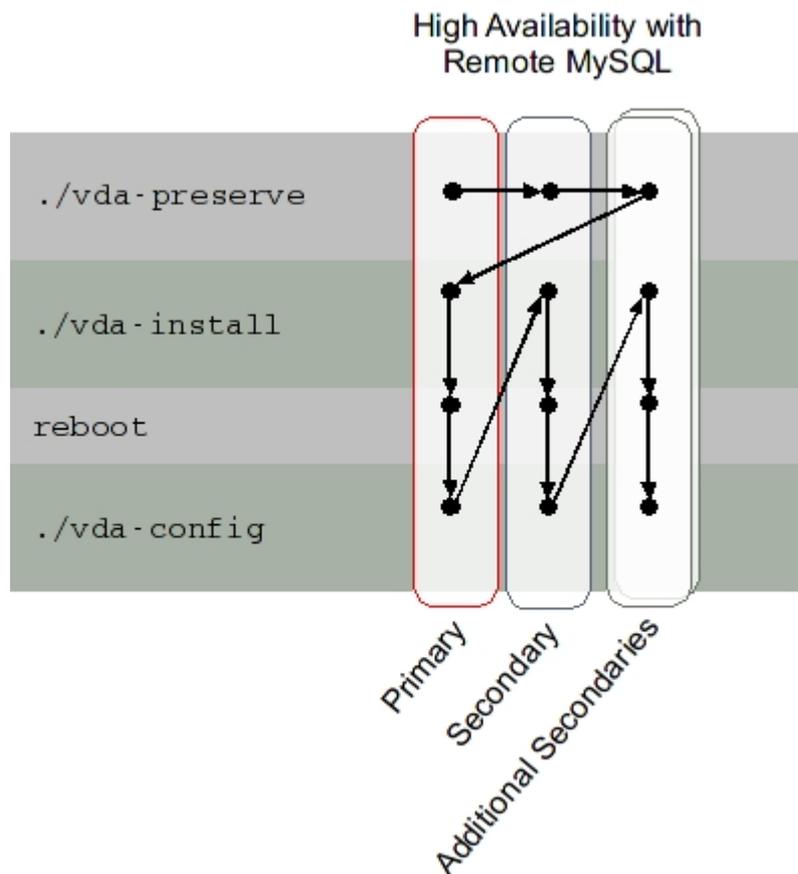
スクリプトは、二次ホストが更新プロセスの途中であるかどうかを認識し、更新の構成を実行して更新プロセス Oracle VDI コア関連のサービスがふたたび有効になります。

リリース 3.2 への更新方法 (リモート MySQL を使用した高可用性構成)



機能停止時の影響

Oracle VDI コア一次ホストおよび最初の 2 台の Oracle VDI コア二次ホストを更新すると、これらのホスト上でコアの機能が停止します。これ以降の二次ホストは、更新プロセス中も機能します。マイグレーションの最初 SQL ノードも再起動してはいけません。



始める前に

- ⊖ **バックアップ**
 以下のチェックリストを使用して、重要なデータがすべて適切にバックアップされたかを確認してください。
 - ✔ **データベース -**
 更新プロセスを開始する前にデータベースをバックアップすることを強くお勧めします。これによって、あと VDI 3.1 ドキュメントの「データのバックアップ方法と復元方法 (リモート MySQL データベース)」を参照して
 - ✔ **カスタマイズ済み `pam.conf` ファイル -** 更新プロセスにより、ファイル `/etc/pam.conf` (SRSS アクセス権の内容が再生成されます。ファイルをカスタマイズ済みの場合、更新の前にバックアップを行い、新しく生成

- ⊖ **Oracle VDI Manager と CLI を使用した変更**
 リリース 3.2 への更新中に、Oracle VDI Manager または CLI で Oracle VDI コアに変更を行うことは禁止されています。

手順

1. すべての Oracle VDI コアホスト上のデータを保存します。
 - a. ルートユーザーとして、Oracle VDI コアのアーカイブを解凍し、対応するディレクトリに移動します。

```
# unzip vda_3.2_amd64.zip
# cd vda_3.2_amd64
```

- b. `vda-preserve` スクリプトを実行します。

```
# ./vda-preserve
```

c. すべての Oracle VDI コア一次および二次ホスト上で、直前の下位手順を実行します。

2. 一次 Oracle VDI コアホスト上で、イメージディレクトリから更新のインストールを実行します。

a. イメージディレクトリに移動します。

```
# cd vda_3.2_amd64
```

b. インストールを実行します。

```
# ./vda-install
```

vda-install スクリプトは、以前のリリースの Oracle VDI コアがインストールされているかどうかを認識し、ユーザーに更新するかどうかを確認します。「y (はい)」を選択すると、更新プロセスの最初のフェーズが開始されます。更新プロセスのインストール部分で VDI コア一次ホスト上の設定がバックアップされ、リリース 3.2 の新機能をサポートできるようにデータベースが準備されます。更新の最初のフェーズでは、MySQL Cluster の管理ノードも停止し、また Oracle VDI コア一次ホストがセッションをホストするように構成されているため、Oracle VDI コア関連のすべてのサービスが無効になります。次に、以前のリリースのパッケージがアンインストールされ Oracle Virtual Desktop Infrastructure 3.2 のパッケージに置き換えられます。

c. vda-install スクリプトが終了したら、Oracle VDI コア一次ホストを再起動し、ホストが立ち上がるまで待機します。

```
# reboot
```

d. 構成を実行します。

```
# /opt/SUNWvda/sbin/vda-config
```

vda-config スクリプトは、Oracle VDI コア一次ホストが更新プロセスの途中であるかどうかを認識し、更新の構成を実行して更新プロセスを完了し Oracle VDI コアホストとして動作するように構成されていた場合は、この構成によってすべての Oracle VDI コア関連のサービスがふたたび有効になります。

3. Oracle VDI コア二次ホスト上で更新のインストールと構成を実行します。

2 台の二次ホストを安全に更新するには、最初の二次ホストに Oracle VDI コアを完全にインストールしてから、2 台目の二次ホストに Oracle VDI コアを完全にインストールします。Oracle VDI コアを 2 台の二次ホストに同時にインストールする方法はサポートされていません。

a. イメージディレクトリに移動します。

```
# cd vda_3.2_amd64
```

- b. インストールを実行します。

```
# ./vda-install
```

vda-install

スクリプトは、以前のリリースがインストールされているかどうかを認識し、ユーザーに更新するかどうかを(はい)を選択すると、マイグレーションプロセスが開始されます。以前のリリースのパッケージがアンインストールされた後、Oracle Virtual Desktop Infrastructure 3.2 のパッケージに置き換えられます。

- c. vda-install スクリプトが終了したら、Oracle VDI コア二次ホストを再起動し、ホストが立ち上がるまで待機します。

```
# reboot
```

- d. 構成を実行します。

```
# /opt/SUNWvda/sbin/vda-config
```

vda-config

スクリプトは、二次ホストが更新プロセスの途中であるかどうかを認識し、更新の構成を実行して更新プロセスが完了するまで待機します。更新の構成を実行して更新プロセスが完了すると、Oracle VDI コア関連のサービスがふたたび有効になります。

リリース 3.2 への更新方法 (仮想化プラットフォーム)

Oracle Virtual Desktop Infrastructure 3.2

への更新では、仮想化プラットフォームでいくつかのタスクを実行する必要があります。Oracle VM VirtualBox 仮想化プラットフォームとともに Oracle Virtual Desktop Infrastructure をインストールするには、Oracle Virtual Desktop Infrastructure 3.2 の新機能を使用するために新しいバージョンの Oracle VM VirtualBox が必要になります。また、対応する Guest Additions を仮想マシンにインストールする必要があります。Oracle Virtual Desktop Infrastructure 3.2 は以前のバージョンと同様に VMware vCenter および VMware ESX Server のすべてのバージョンをサポートしているため、VMware vCenter 仮想化プラットフォームを更新する必要はありません。

始める前に

仮想化プラットフォームの前に、Oracle VDI コアホストを更新することをお勧めします。Oracle VDI コアホストがまだ更新されていない場合の詳細については、「[Oracle Virtual Desktop Infrastructure 3.2 への更新について](#)」を参照してください。

Oracle VM VirtualBox 仮想化プラットフォームの場合の手順

1. Oracle VM VirtualBox ホスト上で Oracle VM VirtualBox のバージョンを更新します。
 - a. Oracle VM VirtualBox のインストールディレクトリに移動し、ルートユーザーとして次のコマンドを実行することにより、前のバージョンの Oracle VM VirtualBox をアンインストールします。

```
# ./vb-install -u
```

- b. Oracle VM VirtualBox が正常に削除されたら、次のコマンドを実行して、現在サポートされているバージョンの Oracle VM VirtualBox をインストールします。

```
# ./vb-install
```

2. すべての仮想マシン上で Guest Additions を更新します。

 特定のホスト上で Oracle VM VirtualBox をアップグレードすると、ホスト上に新しい SSL 証明書が生成され、コアがそのホストにアクセスしようとする、期待される証明書とホスト上で使用可能な新しい証明書の間で VDI コアはそのホストを信頼せず、アクセスを許可しないため、Oracle VM VirtualBox ホストの認証は失敗します。この状況を解決するには、Oracle VDI Manager または CLI で Oracle VM VirtualBox ホストを「再構成」する必要があります。この再構成では、新しい SSL 証明書を受け入れて、Oracle VDI コア ホストを正しく認証できるようにします。

VMware vCenter 仮想化プラットフォームの場合の手順

Oracle Virtual Desktop Infrastructure 3.2 と連携して動作するように VMware vCenter 仮想化プラットフォームを更新するための唯一の要件は、各 VMware vCenter デスクトップ上で VDI Tools を更新することです。

- VMware vCenter デスクトップ上で VDI Tools を更新します。
 1. 「プログラムの追加と削除」 ツールを使用して、仮想マシンから既存の VDI Tools ファイルを削除します。
 2. インストーラファイル (32 ビットプラットフォームの場合は `vda-tools-x86.msi`、64 ビットプラットフォームの場合は `vda-tools-x64.msi`) を Oracle VDI コアアーカイブの `vda_3.2/Windows/Packages` ディレクトリから仮想マシンにコピーします。
 3. 仮想マシンのコンソール内でインストーラをダブルクリックし、プロンプトに従ってインストールを完了します。
 4. この時点で、Oracle VDI Tools サービスが VM サービスリストに追加されて動作しているはずですが、このサービスは自動的に開始するように設定されてい

Sun Storage 7000 2010.Q1 への更新方法

手順

1. ストレージを保守モードにします。



Microsoft Hyper-V

このホストまたはストレージを保守モードにしたときは、すべてのデスクトップの電源を切断する必要があります。3.2 Release Notes」のバグ ID 6919755 を参照してください。

- a. 「デスクトッププロバイダ」カテゴリを選択し、中断するストレージサーバーが含まれているデスクトッププロバイダをクリックします。
- b. 「ストレージ」タブを選択し、ストレージサーバーを選択し、「保守」をクリックします。
 - i. サーバーが保守モードに入り始める時刻を選択するか、「今すぐ」をクリックして現在の時刻を選択します。
 - ii. 「OK」をクリックして保守モードジョブを送信します。
- c. 次の手順を実行する前に、保守モードジョブが完了するまで待機します。

2. ファームウェアをアップグレードします。

ストレージを 2010.Q1 に安全にアップグレードするには、ストレージで 2009.Q2

ファームウェアが実行されている必要があります。

ストレージのアップグレードの詳細、リリースノート、ダウンロードリンク、および Sun Storage 7000 シリーズのバージョン履歴については、FishWorks のドキュメントを参照してください。



アップグレード後のストレージを初めて Oracle VDI

コアで有効にすると、再開ジョブによって、ストレージ上の LUN と Oracle VDI コアデータベースのボリュームエントリが新しい環境に合わせて調整されます。

ストレージを正常に再開するには、ストレージのすべてのプロジェクトに含まれるすべての LUN がデータベースによって認識される必要があります。このため、次の場合は Oracle VDI コアがすでに使用しているストレージをアップグレードしてはいけません。

- サードパーティーのツールによってストレージ上の LUN が作成されている場合
- 別の VDI がストレージを使用している (または使用していた) 場合

3. ストレージを有効にします。
 - a. 「デスクトッププロバイダ」カテゴリを選択し、ストレージサーバーが含まれているデスクトッププロバイダをクリックします。
 - b. 「ストレージ」タブを選択し、ストレージサーバーを選択して「有効」ボタンをクリックします。

VDI コアデータベースのバックアップ方法と復元方法

すべてのユーザーレベルのデータと同様に、VDI コアデータベースを定期的にバックアップすることが重要です。これは、Oracle VDI コアホストを再インストールする場合にも欠かせない手順です。

MySQL Cluster とリモート MySQL

どちらのデータベースの種類でデータをバックアップするときも、次の情報を使用します。Oracle VDI コア構成および対応するデータベースについての詳細は、[Oracle VDI コアの構成について](#)ページを参照してください。



このバックアップ作業では、VDI コアデータベースの内容だけをアーカイブします。デスクトップのボリュームとテンプレート、および構成と

始める前に

VDI コアデータベースのバックアップと復元をするときの重要な注意点のリストを次に示します。

- Sun VDI 3.1 および 3.1.1 データベースをバックアップおよび復元するには、「データのバックアップおよび復元方法 (バンドル版 MySQL データベース)」および「データのバックアップ方法と復元方法 (リモート MySQL データベース)」を参照してください。
- マルチホスト設定の場合、バックアップおよび復元のプロセスは、1 台のホストのみで実行してください。すべてのホストで実行する必要はありません。
- アーカイブされたバックアップにアクセス可能である限り、バックアップおよび復元の作業は別のホストでも実行できます。
- 一次ホストで VDI セッションをホストするように構成している場合は、一次ホストでバックアップと復元の作業を実行できます (vda-config コマンドを 2 回実行します)。
- バックアップジョブによって、ほかのすべての VDI ジョブの実行が停止されます。バックアップが終了すると、ジョブは自動的に再開されます。
- 復元ジョブによって、VDI システム全体の実行が停止されます。ただし、アクティブなセッションは引き続き実行されます。復元ジョブが終了し VDI セッションをホストするよう構成している場合は一次ホスト上の VDI システムを共通エージェントコンテナ (cacao) を通じて再起動する必要があります。

手順

1. データベースのバックアップを作成します。
 - CLI で backup コマンドを呼び出します。

```
# /opt/SUNWvda/sbin/vda-backup -p </path/to/directory> -o
<output-file-name>
```

バックアップジョブの実行中、すべてのホストですべてのその他のジョブは停止されるかキューに入れられま .db という拡張子でタイムスタンプに基づいた名前の 1 つのファイルが含まれます。backup コマンド構文の詳細を表示するには、次のコマンドを実行します。

```
# /opt/SUNWvda/sbin/vda-backup -h
```

- Oracle VDI Manager で次を実行します。

- a. 「Settings」 カテゴリ、「VDI Center」 サブカテゴリの順に選択します。
 - b. 「Summary」 タブを選択して、「VDI Hosts」 テーブルの「Backup」 をクリックします。
2. 新しい Oracle Virtual Desktop Infrastructure インストールでバックアップしたデータベースを復元します。
 - CLI で `restore` コマンドを呼び出します。

```
# /opt/SUNWvda/sbin/vda-restore -i </path/to/backup.zip>
```

`restore` コマンド構文の詳細を表示するには、次のコマンドを実行します。

```
# /opt/SUNWvda/sbin/vda-restore -h
```

3. 復元ジョブが終了したあとは、すべての二次ホスト上、および一次ホストで VDI セッションをホストするよう構成している場合は一次ホスト上の VDI システムを再起動します。

```
# cacoadm stop -f  
# cacoadm start
```